

# えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



9月20日(金) ご両親

3連休前のせいか受付室が10数名で満杯、携帯椅子を持参した人もいた。9日の台風で刑務所の屋根の両端にブルーシートがかぶされていた他にも被害があったことが想像された。待つこと15分くらいで面会室に身体的には台風の影響がなく元気そのもの。体調を崩していた夫の姿を見るなり本当に大丈夫かと言いながらも元気な姿を見て一安心していた様子。

電気水道は影響がないが納入業者に甚大な影響がありいつも通り納入されず献立の変更やなんだかんだで炊事係ははてんでこ舞いしていたが、他は仕事が休みとかで不公平そのもの、何時かに期待して奮闘したとか私からも伝えたいことが広島での活躍や元同僚の篠原さんの東京の会参加、9月21日は松川70年記念集会に周防さんが講演するというので是非息子が支援をお願いしてくれとの要望、叶えが現実に署名活動しているときにゲストの桜井さんが通りかかり大助の思いを話していると、そばに周防さんが、それで桜井さんに声を掛けていただき名刺交換、以前東京の会でお会いしたことまで覚えていらして署名しながら「お母さん司法制度がおかしいんです大変ですが頑張ってください」と優しいまなざしで快く署名に応じてくれたのです。今年もできる限り各地の集会に参加し署名活動に意欲が。

## えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行うが2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

9月12日(木) 玉田ミタテさん、典彦さん

15号台風の後、面会の機会があつて、なんとなく気の帳いた状態で、門を通りました。大助さんは嵐の中どんな夜を過ごしたか、風・雨の音、刑務所の中には響いたか、と。いつもの笑顔、「大丈夫ですよ。元気でしたか」と。いつもの優しい大助!大丈夫ですよ。げんきでしたか。とどっちが励ましに来たのかわからないいつもの面会時間。またまた思っているをつのらせてガラスにタッチ。お別れの時間となりました。

～短歌～

- \* トンネルのむこう木立 赤レンガ 朝陽は届くか 無実の君よ
- \* 「君の名は」 無実の大助調理番 千人分のキャベツ刻むか
- \* あせぬぐうタオル首まく許されず今調理場で包丁握る
- \* 靴づくり食器洗い場 調理人 何もしない無実の君は
- \* 励ましの言葉探せと 口ごもりとにかく早く おもてで話そう
- \* ガラス越し大きな声で笑いあう 負けるもんかとかごし握り
- \* あと3分ほしい物ほと 問いながらのどもと渴き メモの手みだれ



↑ 布川国賠、大崎事件、今市事件の支援の方々

千葉県本部  
50周年レセプション  
大助さんのご両親



激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 **2019年 134号**

● 10月15, 23, 28。ですが残り1日だけです。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

面会感想にご協力をください。千葉県本部へ E-mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp



## 9月30日 門井一儀（栃木・那須の会）

、茶色レンガの千葉刑務所に「守る会那須」から2人で大助さん面会に、救済会千葉県本部と千葉の守る会のメンバーご協力をいただき、無事面会を果たすことができました。ひとえに、このサポートがあるから心配することなく計画を立てられるんだなあ、と感心しました。

さて、大助さん面会は3回目となる門井は、スツと面会室に入ってきた大助さんの表情は元気だよと気持ちを表しているように見えました。髪は短髪（この話題で大助さんは、「ここでは長髪はいません」笑い）なので、そう見えるんですね。大助さんが「もう48歳になるんですよ」と言いましたが、そうです、ここに居てはならない人なんです。

大助さんを取り戻そうと運動する支援者の最近の様子として、8/31～9/1は、9回目となる関東連絡会学習交流会が「那須の広い空」夏学習交流会と銘打って那須で開かれ65名が参加したこと、神奈川の田戸さんは逮捕に至る経過をたどっても「大助さんを犯人とする証拠なし」と話したこと、「湖東記念病院再審開始決定に学ぶ」で再審開始を勝ち取った井戸弁護士は再審になってから「医療従事者の調書が有罪・無罪を決める重要な証拠になる」と強く要請し裁判所に開示させた事例では、裁判官に働きかけ「そうしないといけない」と考えさせるようなことが重要だと話し、実際、その開示により再審開始の決定につながっていったこと、そしてマスコミでも取り上げてくれたことなどが話され、我々大助さん守る会もこれに学びたいと伝えました。そうすると大助さんは、「再審は裁判官次第だ。当たりハズレでは済まされない」と応じていました。

湖東再審開始に学んでこれからは改めて、マスコミに影響の強い人や裁判官の心に響く訴え方をしようと思っているんだと話すと、大助さんは「前に支援してくれた人にも手紙を出している」と応じていました。

しもやけで心配した話では、「ここ3年、靴作りから野菜洗いや野菜の細断の部署に移ったので、水は冷たいが心配は無い」とのこと。就寝は、消灯が9時で、朝の仕事があるので6時前に起きている、と言っていました。

次月（10月）の面会予定日は、今日（9/30）の夕方になれば知らされると言っていました。予定した30分も瞬く間に過ぎ、無実の大助さんを目の前にして、人権を無視し続ける日本の司法制度の改善は急ぎの課題だし、これを多くの人に伝えなければと痛感させられました。

栃木からの2人



## 9月30日（月） 守る会那須 森野明義

千葉の救済会の戸賀さんに引率され、守る会那須野事務局長の門井さんと面会室に入り、私は初めての面会です

面会室に入室した守大助さんを見た瞬間、「あれ！」と声を出してしまいました。考えてみれば、守大助さんをチラシでしか知らなかったんです。短髪の大助さんでした。受刑者が長髪であるわけありませんね。

私からは、主に刑務所内の日常についてあれこれ聞きました。仕事は慣れましたか？

仕事を終わって消灯時間まではどう過ごしていますか？休日は何をしていますか？

彼は一つ一つ丁寧に、ゆっくりと穏やかに、かみ砕くように話してくれました。

さすが医療機関で患者に接してきた職業上培ってきた対応だなと感じました。

また、会話が進んできて、松川事件70周年記念集会でお母さんが署名を集め居ていた話をし、いかに短時間で事件の話をしようかと日々格闘しています。特に筋弛緩剤投与のヶ所は端折って話してしまいます。

しかし、医療関係者の「ここが変！」は大変分かり易いしは話して相手もうなずいてくれます。もっともっと多くの人に訴えてゆきたい。

最高裁には毎月要請行動に参加しています。

日本の司法は一世紀遅れているんじゃないかと、台湾のイノセント集会に参加した布川事件の桜井さんが言っています。

今冤罪事件を無くそうと全国の仲間が「司法改革」を求める運動をしていますなど守大助さんと日本の司法の問題点をやり取りしました。

最後に早く無罪判決を勝ち取り、那須の広い空のもとでお会いしましょう！とお別れしてきました。

